

情報連絡員報告総括表(令和元年6月分)

三重県中小企業団体中央会
 連絡員総数 40名
 回答数 40名 (100%)

業界の景気動向(前年同月比)

	売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 (臨時・パートを含む)			業界景況		
	増 加	不 変	減 少	増 加	不 変	減 少	上 昇	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	上 昇	不 変	悪 化	増 加	不 変	減 少	好 転	不 変	悪 化
製 造 業	食 料 品		3	1	1	2	1	3			3	1		2	2		3	1		4			4			2	2
	織 維 工 業		2	1		2	1	1	2		3			2	1		3			3			3			1	2
	木 材 ・ 木 製 品			1		1			1			1			1		1				1		1				1
	紙 ・ 紙 加 工 品		1	1	1	1			2		2			1	1		2			1	1		1	1		1	1
	印 刷		1			1			1		1			1			1			1			1			1	
	化 学 ・ ゴ ム																										
	窯 業 ・ 土 石 製 品		2	1		3			3		3			2	1		3			2	1		3			2	1
	鉄 鋼 ・ 金 属			1			1		1		1			1			1				1		1				1
	一 般 機 器		2	1		3			3		3			1	2		3			2	1		3			2	1
	電 気 機 器			1		1			1		1				1			1			1		1			1	
	輸 送 機 器			1			1		1		1			1			1				1		1			1	
そ の 他																											
小 計		11	9	2	14	4	2	18			18	2		11	9		18	2		13	7		19	1		11	9
非 製 造 業	卸 売 業		1	1		2		1	1			2			1	1		2				2			1	1	
	小 売 業		4	2	3	2	1	2	4		4	2		3	3		4	2				5	1		4	2	
	商 店 街		1				1		1		1				1		1					1			1		
	サ ー ビ ス 業		4	1				1	4		5		1	3	1		4	1				5			3	2	
	建 設 業	1	2	1					3	1		4		3	1		3	1				4			3	1	
	運 輸 業		1						1		1			1			1					1			1		
	そ の 他		1						1		1			1			1					1			1		
小 計	1	14	5	3	4	2	4	15	1		18	2	1	12	7		16	4			19	1		14	6		
合 計	1	25	14	5	18	6	6	33	1		36	4	1	23	16		34	6		13	7		38	2		25	15

最近の主要指標の前年同月比D Iの推移

(平成30年6月～令和元年6月)

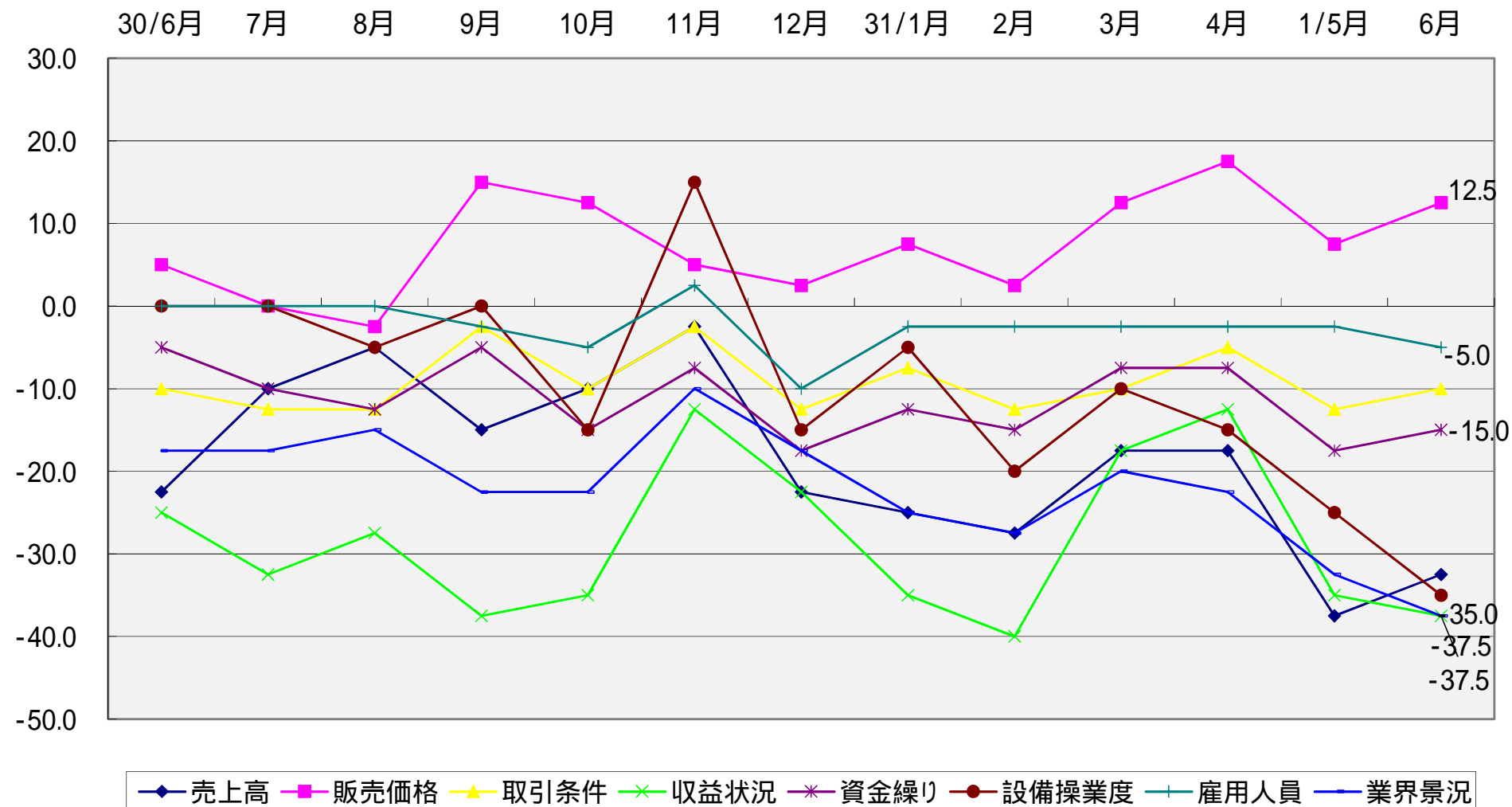
三重県中小企業団体中央会

連絡員総数 40名

	30/6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	31/1月	2月	3月	4月	1/5月	6月	増減
売上高	-22.5	-10.0	-5.0	-15.0	-10.0	-2.5	-22.5	-25.0	-27.5	-17.5	-17.5	-37.5	-32.5	5.0
販売価格	5.0	0.0	-2.5	15.0	12.5	5.0	2.5	7.5	2.5	12.5	17.5	7.5	12.5	5.0
取引条件	-10.0	-12.5	-12.5	-2.5	-10.0	-2.5	-12.5	-7.5	-12.5	-10.0	-5.0	-12.5	-10.0	2.5
収益状況	-25.0	-32.5	-27.5	-37.5	-35.0	-12.5	-22.5	-35.0	-40.0	-17.5	-12.5	-35.0	-37.5	-2.5
資金繰り	-5.0	-10.0	-12.5	-5.0	-15.0	-7.5	-17.5	-12.5	-15.0	-7.5	-7.5	-17.5	-15.0	2.5
設備操業度	0.0	0.0	-5.0	0.0	-15.0	15.0	-15.0	-5.0	-20.0	-10.0	-15.0	-25.0	-35.0	-10.0
雇用人員	0.0	0.0	0.0	-2.5	-5.0	2.5	-10.0	-2.5	-2.5	-2.5	-2.5	-2.5	-5.0	-2.5
業界景況	-17.5	-17.5	-15.0	-22.5	-22.5	-10.0	-17.5	-25.0	-27.5	-20.0	-22.5	-32.5	-37.5	-5.0

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移



情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	漬物	生産者の高齢化による生産量の減少が続いており、漬物業者自らの原料野菜の生産や県外からの原料野菜の確保を進めている。今年は4月から5月にかけての高温、乾燥により、夏野菜の発芽、生育不良が発生し、原料供給への影響が心配されている。6月7日には名古屋で中部漬物協会の総会が開催された。7月25日には東京で全漬連主催の漬物技能評議会が開催され、理事長が出席予定。また9月1日に漬物製造管理士技能検定試験が行われる予定であり、それに向けた技術研修会が名古屋で7月7日(日)に開催された。
	醤油味噌	5月に組合初の新規加入があり、38組合員となった。代表は三代目だが今まで加入実績がなかった。大型連休後、5月も良くなかったが、6月も回復の様子が思わしくない。当組合理事長企業のヤマモリ榎が実行委員会の主体をなす「タイフェスティバルin名古屋2019」が今年も6月1日(土)、2日(日)に久屋大通公園久屋広場で盛大に開催された。
	豆腐	国産大豆が品薄のため、値上りぎみで収益は悪化している。
	製麺	働き方改革や人件費の高騰、資材、段ボール等も高騰して、価格の見直しに取り組んでいかなければならない。そのため、よりお得意様に誠意をもって取り組んでいかなければならない。この問題に取り組んでいけば今後の業界の問題解決になると思う。
繊維工業	テントシート	県外の同業者が県内に営業所を設置し、北勢、南勢地域で活動を始め、今後の業界の活性化が楽しみである。
紙・紙加工品	紙器段ボール	食品業界において、冷凍向けの段ボールが順調に出荷され、また例年より早いタイミングで秋・冬向けの食品の備蓄生産も始まる。生産量は例年並みを確保できた。
	古紙	6月の取り扱い重量は、前年比：段ボール約96±5%、新聞、チラシ約91±6%、雑誌、雑紙、その他合わせて約93±7%の模様。一般的な景気が明らかに落ちたように感じられ、現在でも高収益の企業もあるようだが、集約されながらもますます二分化されつつあるように思う。消費税増税分の粗利や社員の老後2000万円の累積収入をどのようなサービスで生み出そうか。またG20も無事に終わり、景気は大きく改善されることはないように感じられ、脱プラスチックと廃棄物の処理において、紙製品に代わる商品も見受けられるが、中国の廃棄物輸入規制と米中貿易摩擦による景気減退で古紙輸出を行っていた組合員の古紙在庫は多く、輸出価格も値下がりしているようである。古紙の消費にも時間がかかるようで、荷余りの状態が数年続くとの予測がでている。残念ながら古紙の持ち去りは無くならず流通しているようである。社内的に更なる高齢化や雇用対策等を迫られている。
窯業・土石製品	伊賀焼	伊賀焼伝統産業会館の運営については梅雨の影響等もあり、入館者数、売上とも低調であった。
鉄鋼・金属	鍍金	当業界の生産量は5月とほぼ同様であった。自動車関連部品は前月と同様に増加も減少もあり、横ばい状態であった。また、産業機械関連部品、半導体関連部品は長引く米中貿易摩擦の影響が続き低調であった。しかしながら半導体業界では夏場から一部増産するとの情報もあり、少しずつ回復するものと思われる。中東情勢により原材料の高騰も考えられるので、その点からも目が離せない。
一般機器	四日市	人手不足、高齢化、人口減少等で日本国内の経済環境は悪化の一途をたどっている。G20もあまり効果は得られなかった。日銀短観も景気の後退を伝えている。そんな中、組合員は自助努力を続けている。
	津市	米中の貿易摩擦により自動車メーカーでの生産状況が著しく低下していると得意先から連絡があがってきた。特に主力車種での生産減があり、その影響が徐々にではあるが、現れてきた。来月も受注予測が低い見通しとのことから、売上増加は当分望めそうにない感じがする。
	伊勢市	車の部品メーカー、タイヤメーカーは好調のようである。一方、中国との取引量の多い会社からは悪くなってきたとのことである。総じて変わっていない。
電気機器	鳥羽	6月初旬、中旬の動きは鈍く、牛歩並みの動きだったが、後半から少し動きが見えてきた。
輸送機器	鈴鹿	取引先の景況を聞くと、前期は比較的好況だったが、今期はかなり厳しくなるとのことだった。当組合員でもおおむね良い決算だったようであるが、今期に関してはやはり厳しい見方が多かった。6月中旬に当組合主催で鈴鹿市内の大手自動車メーカーの工場見学会を開催し、6社40名の参加があった。事業規模は違うものの、安全や健康を守るための取り組みや工夫、効率的で確実な作業を実施するための工夫など各職場へ反映されることを期待している。

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
輸送機器	青果	野菜前半：長野産レタスはお買い得。キャベツは雨が少ないため、大玉が少ない。大根は値下がりしそう。これまで安かった果菜類のきゅうり、トマト、ナスの価格がちょっと上がってきた。野菜後半：レタス、サニーレタス、グリーンリーフ等が大変お買い得。小松菜、ほうれん草は安定して入荷。キャベツ、ナスは例年並みの価格。九州産オクラが順調に入荷。果物前半：さくらんぼ、デラウェアの入荷が増え、価格も下がっている。愛知産のハウスみかんも増えているが人気があり高値。果物後半：山形産、北海道産のさくらんぼは入荷がピークで例年より少なく価格は高い。大阪産、島根産のデラウェアも例年より高め。山梨産の桃、梨の入荷が始まり種類が豊富になってきた。愛知産、石川産のスイカは雨で需要が減って値下がりにしている。
	自転車	いよいよ梅雨時期、業界では最もやりづらい季節に入ってくる。自転車の販売台数は総じて低調である。点検整備については、例年並み。最近少し増える兆しがあるのが、車いすである。本来車いすは整備修理等に関していえば、自転車業に携わる者にとっては非常に親和性の高いものである。将来への展望が開ける分野だと思われる。
	電器	夏の合展がスタートしており、今年は消費税増税前に早期に需要を獲得すべく、昨年と違って前倒しで実施して、お客様の買い替えにつなげている。特にエアコンは、猛暑に備えて早期の案内を進めた。エアコンや洗濯機は夏の最盛期に向けて、上位モデルを薦めて単価アップにつなげた。また省エネタイプのエアコン・冷蔵庫は、総務省の商エネマーケットモデルの推進にも、5月から継続して協力をしている。個展を開くお店では、消費税増税前の買い替えで売り上げアップを図った。6月は、県内各自治体に問い合わせて、小型家電等の廃棄について意見を伺い組合で纏めた。
	石油	6月の燃料油販売量については、前年対比93%前後の状況であった。ガソリン、軽油とも販売数量の減販であった。特に注目なのが原油価格状況であるが、5月中旬過ぎから原油価格が暴落し、販売価格については値下げの連続であった。その後、原油価格は小反発し元売の仕切りは値上げとなり、再びコスト高に移行している状況であるが、今後OPEC総会での原油減産状況と米国とイランにおける中東情勢次第である。来月は夏商戦、燃料の販売減を油外商品の販売で収益改善を行いたい。
商店街	熊野市	熊野で毎年開催されているラクビーや野球等のスポーツ交流イベントが今年も開催され、スポーツ集客により、多くの宿泊客で賑わった。この時期としては、観光集客は閑散期となるため、こういった集客事業は観光業者にとっては好評のようである。
	旅館	5月の大型連休後、集客の低調が続いていたが、その傾向が6月まで影響していたようで、団体・個人とも集客が伸びなかった。数年来落ち込んでいる関西市場の回復とインバウンド(外国人観光客)の集客に官民あけて取り組んでいくことが必要。
	測量	官庁の件数が少なく、市・県からの受注は市内業界の半数ほどであり、組合員の受注率は20%くらいである。民間からの受注に関しては一社のみが特段に多いが、他の者は受注していない現状である。
	警備	例年と同様、仕事量は少し減少しているが、単価の値上げにより売上高は同様となっている。
	内装工事業	6月はわずかながら対前年同月比でマイナスとなってしまった。秋の消費税の増税までに駆け込み需要が予想されるが、前回の増税程は影響がないと思う。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	製麺	うどんサミットの開催に向けて、問題はあるので、アドバイス等をお願いしたい。
サービス業	旅館	昨年より取り組んでいる関西市場の地盤沈下対策をより強化継続してもらいたい。
	測量	行政から組合を軽く見られている。組合員から見てメリットなし。経費の負担が多い。
一般機器	四日市	国の政策はどれ程中小企業を助けているのだろうか。わが国の経済は中小企業が守っていることを再認識してほしい。